

「パウロ、ペトロを非難する」

2020年07月22日

彼らが福音の真理に従ってまっすぐ歩いていないのを見て、私は皆の前でケファに言いました。「あなたはユダヤ人でありながら、ユダヤ人のように生活しないで、異邦人のように生活しているのに、どうして異邦人にユダヤ人のようになることを強いるのですか。」
(ガラテヤ書2章14節)

初代教会において、ペトロは主イエスに直接教えを受け、しかも、第一の弟子として認められ、諸教会の間で、絶大な信頼と尊敬を集めていた。その「ケファ（ペトロ）がアンテオキアに来たとき、責めるべきところがあったので、私は面と向かって非難しました（ガラテヤ2:11）」とパウロは書いている。パウロは、皆に尊敬されているペトロであっても、福音に反することをすれば非難すると、自分はどんな権威も恐れない者であると言っている。それは、自分が受けた福音は、人々や人からでなく、キリストから直接受けた啓示であるからであると言おうとしている。

異邦人教会のアンテオキア教会で、ペトロは異邦人たちと食卓を囲み、食事を共にしていた。そこへ、エルサレム教会の割礼を受けているユダヤ人キリスト者が訪ねて来た。その時、ペトロは食卓から身を引き、離れて行った。それは、割礼を受けたユダヤ人は、割礼を受けていない異邦人を汚れた者と見なして、食事を共にしないというのが慣わしであったからである。ペトロは、割礼を受けたユダヤ人キリスト者に、割礼を受けていない異邦人と食事をして見られ、まずいと思い、食卓から立ち去ろうとしたのである。吹き出しそうな話であるが、ユダヤ人は異邦人と席を共にしないことが、神の民の証であった。ペトロは、割礼を受けたユダヤ人がいない時は、キリスト者同士として抵抗なく食事を共にしていたのであるが、ユダヤ人キリスト者を見て、ユダヤ教の伝統に舞い戻ろうとしたのである。

パウロは、ユダヤ人と異邦人の間にある律法という垣根を打ち壊し、キリストによって与えられた共にある自由の福音を宣べ伝えていた。それなのに、ペトロはユダヤ人と異邦人を隔てる垣根を造り、キリストにある自由から反れてしまった。また、ペトロだけでなく、一緒に来て、食事を共にしていたユダヤ人キリスト者もペトロの行動に同調し、更に、バルナバまでもが、彼らの見せかけの行いに引きずり込まれて行った。パウロとしては、キリストの十字架によって、ユダヤ教の戒律から自由にされながら、彼らが再び、律法の奴隷に回帰したことを許せなかった。福音の真理に従って、真っ直ぐに歩いていないと激怒して、皆の前で、ペトロを非難したのである。「あなたはユダヤ人でありながら、ユダヤ人のように生活しないで、異邦人のように生活しているのに、どうして異邦人にユダヤ人のようになることを強いるのですか。」「ユダヤ人のようになる」とは、割礼を受けることを意味している。ユダヤ人キリスト者が共同の食事から席を立てば、異邦人キリスト者が教会の交わりから締め出されることになる。それを回避するためには、異邦人が割礼を受けるしか方法がないではないかと言っている訳である。

パウロは福音に反することを敏感に見分け、福音に立ち戻るように強力に説得する。自分の立ち位置を明確にすることによって、偽兄弟・ユダヤ教的キリスト者に引きずり込まれた過ちからガラテヤの諸教会の人々を正そうとしている。パウロらしい口調で、律法や割礼のユダヤ教の戒律から解き放たれた、福音にある自由を訴えているのである。